特別展：SENの行方 荒井善則

http://otarubij-kyoryoku.com

海を越えて

Special Exhibition Yoshinori Arai
"SEN-Across the sea"

Soft Landing to Season モノタイプ 2025年

2026.12.5 sat – 2027.3.21 sun

開館時間：9:30～17:00
休館日：月曜日（ただし1/11を除く）、12/29-1/3、1/12、1/13、2/12、2/24
観覧料：一般 700円（560円）／市内高齢者・高校生 350円（280円）／
中学生以下無料（　）内は団体料金

主催：市立小樽美術館、協賛：市立小樽美術館協力会、後援：北海道新聞社
助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団

市立小樽美術館
otaru city museum of art

〒047-0031 北海道小樽市色内1丁目9-5
TEL 0134-34-0035

展覧会・イベント詳細
小樽美術館協力会ホームページへ

作為なき「線」が描く、荒井善則の宇宙

国際観光都市として輝きを放つ小樽。韓国をはじめ世界中から多くの旅人を迎えるこの街は、2006年の友好協定、2009年の姉妹都市提携を経て、ソウル特別市江西区と深い絆を育んできました。提携から15年余り。この記念すべき節目に、韓国現代美術の最前線で高く評価され、現地のレジデンスで着実に実績を積み重ねてきたアーティスト・荒井善則を小樽でご紹介します。

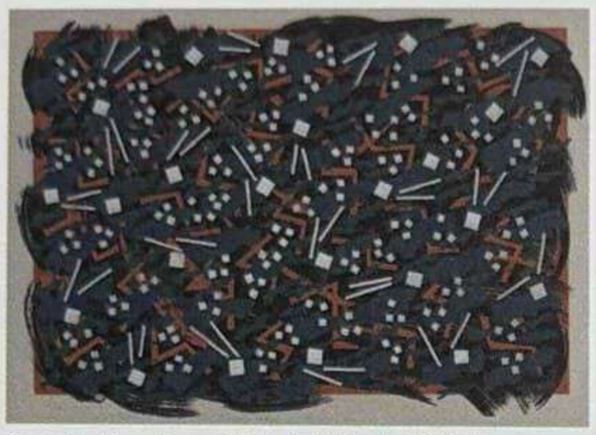
近年にいたって、荒井善則の表現は、極限まで削ぎ落とされた最小限の行為―「線を擦る」ことの反復に辿り着きました。木材の角に墨やインクを乗せ、紙に押し当てる。韓紙の上で線の痕跡として定着させる。作為を捨て、無心に繰り返されるその一連の動作は、静謐でありながら圧倒的な存在感を放ちます。

画面を彩るのは、赤、黄、緑の三原色。太陽を象徴する「赤」、豊穣を願う「黄」、そして自然を慈しむ「緑」。その色彩の背後には、長年の韓国との交流が生んだ精神の対話が息づいています。海を越え、魂が共鳴し合うことで生まれた「SEN(線)」の行方を、ぜひその目で目撃してください。

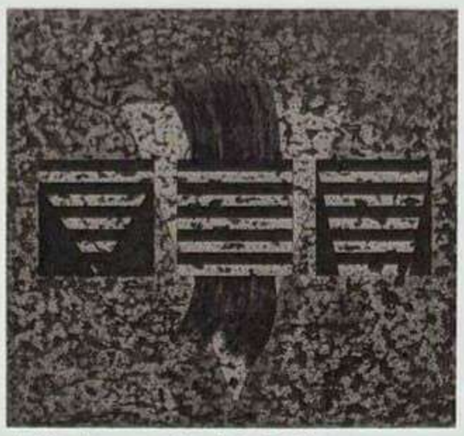
本展は、北海道で育まれた荒井善則のアートが、国際的にどう展開していったのかを示す機会になり、国際交流の橋渡しとして、荒井が関わった韓国との文化交流を小樽の地でより深化させようとするものです。荒井が肌で感じ吸収してきた「韓国現代美術」の一端を知り、現代アートという共通言語を通じて、両国がさらに相互理解を深めることを目的としています。



Soft Landing to Season モノタイプ・スクリーンプリント・描画 2015年



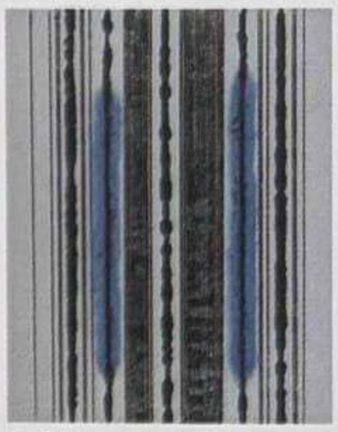
Snow'y Morning スクリーンプリント 1992年



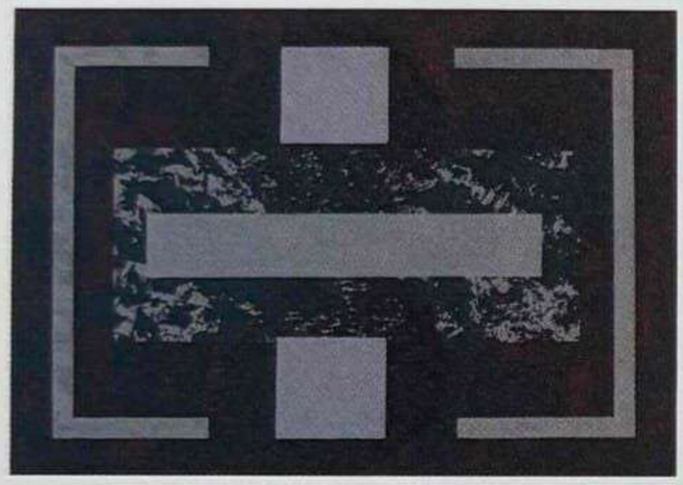
痕跡一水　エッチング 1980年



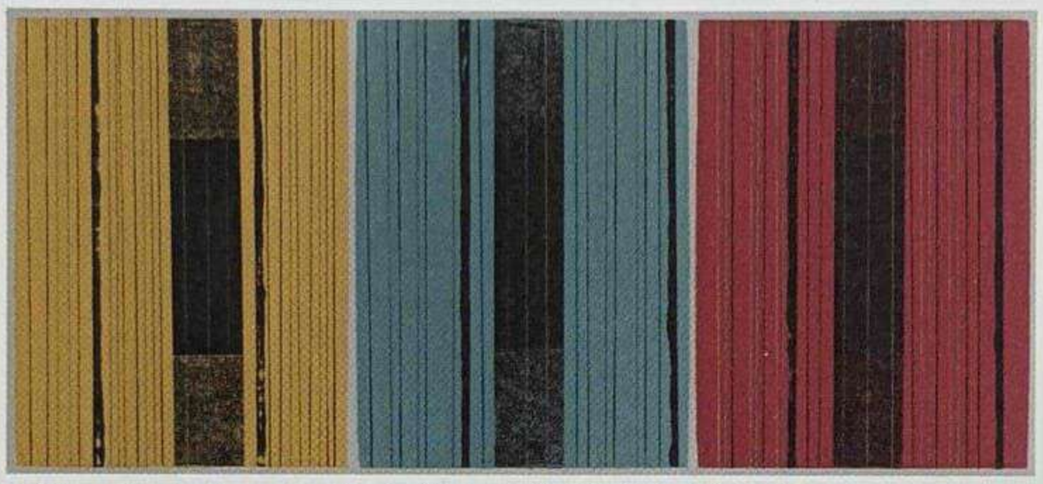
角片と点 スクリーンプリント 1986年



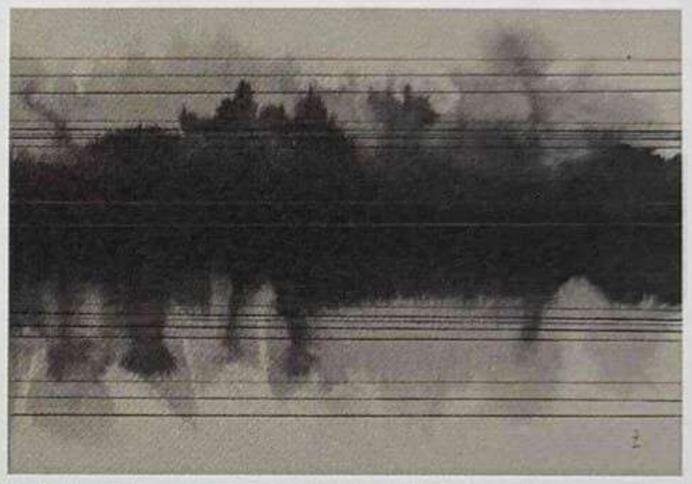
Soft Landing to Season モノタイプ 2025年



On the Stone スクリーンプリント 1996年



Soft Landing to Season スクリーンプリント・モノタイプ(3点セット) 2018年



Soft Landing to Season モノタイプ・墨 2025年



アーティスト・プロファイル

荒井 善則　Arai Yoshinori

1949年長野市生まれ。東海大学工芸短期大学(後の東海大学旭川校)への着任以来、50年の長きにわたり旭川を拠点に北海道の現代美術界を牽引してきました。

その魂の原点は、1971年の初渡韓にあります。「東洋思想の礎に表現された空間」を追い求め、70年代後半に「もの派」の巨匠・李禹煥(リ・ウファン)の、無心に点や線を反復する制作姿勢に深い感銘を受けた荒井は、韓国という地への強い憧憬を抱くようになりました。

版画を起点としながらも、既成の「版」の概念を鮮やかに超越し、インスタレーション、パフォーマンス、ビデオアートを自在に融合させるその手法は、北海道現代美術の担い手として揺るぎない評価を確立しています。1987年の韓国国立現代美術館「ソウル・プリントアドベンチャー」を皮切りに、済州、ソウル、巨済、朴寿根美術館など韓国各地の主要美術館で個展やグループ展を成功させ、同国の現代美術家・尹東天(ユン・ドンチュン)とも長きにわたり友情を育んでいます。

2023年8月からは、世界的なビエンナーレの地・光州市のアーティスト・イン・レジデンスに招聘され、半年間に及ぶ滞在制作を経て隠岩美術館での個展を成功に導きました。

【会期中関連事業】

12.5 sat　本展会場

ミニコンサート　出演／篠笛　山口 千那　14:00〜14:40

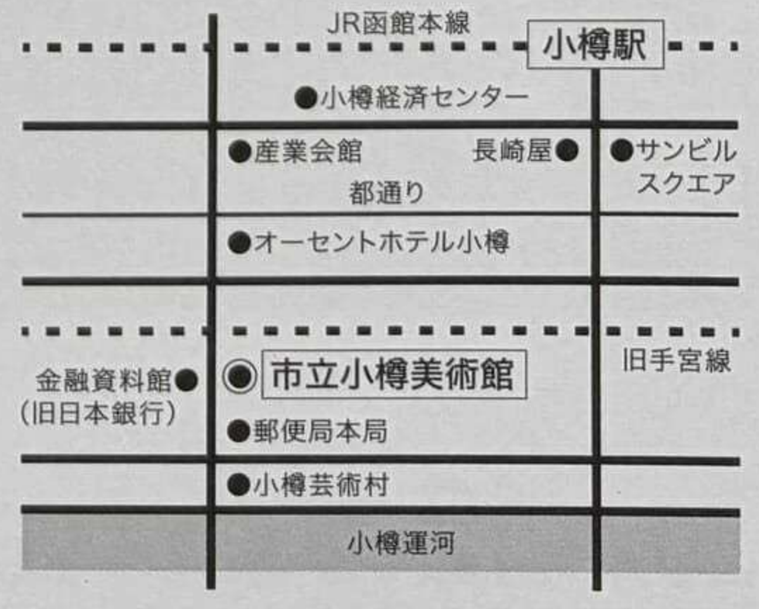
■演奏予定曲／萩の山唄、松風、水鏡、桜花　ほか

山口流家元山口千壽に師事し、2001年、山口流名取「山口千那」として活動を始める。札幌を拠点に、道庁赤れんが古典の日コンサート、時計台まつり記念演奏会、三浦綾子記念文学館コンサートなど、道内各地の演奏会に出演。2024年、奈良県薬師寺にて奉納演奏。自主企画演奏会、語り、茶道、書道揮毫、ひな祭りとのコラボなど、活動の幅を広げている。道新文化センター「篠笛講座」講師。

アーティスト・トーク　出演／荒井 善則　15:00〜16:00



お申込み／事前予約(美術館 TEL0134-34-0035)　※観覧料が必要となります。



市立小樽美術館
otaru city museum of art
〒047-0031 北海道小樽市色内1丁目9-5
TEL 0134-34-0035



山口千那

やまぐちせんな

ミュージアムコンサート 篠笛

演奏予定曲　萩の山唄、松風、水鏡、桜花　ほか

2026年12月5日(土)

14：00～14：40

市立小樽美術館 3階一原有徳記念ホール内
要観覧料　一般700円・市内高齢、高校生350円・中学生以下無料
定員　50名様　事前予約(tel 0134-34-0035)



山口千那（やまぐちせんな）　篠笛山口流名取・教授
北海道教育大学札幌分校特設音楽科卒業。
山口流家元山口千喜に師事し、2001年、山口流名取「山口千那」として活動を始める。篠笛は、篠竹から作られる横笛。決して複雑ではない旋律を追求し音楽を音色で感じる世界。札幌を拠点に、道庁唄れんが古典の日コンサート、時計台まつり記念演奏会、三浦綾子記念文学館コンサートなど、道内各地の演奏会に出演。2024年、奈良県薬師寺奉納演奏。自主企画演奏会、語り、茶道、書道揮毫、ひな祭りとのコラボなど、活動の幅を広げている。道新文化センター（札幌、小樽、旭川、帯広）、コープ文化教室講師、後進の指導に努めている。

篠笛CD「はなごろも」リリース。
山口流篠笛CD「うつくしま」「樫」「群青」収録参加。

近年の演奏活動
2021年4月　山口流開流20周年記念　仙台市パトナホール
2022年5月　草野心平文学館コンサート出演
2022年10月　函館芸術ホール笛の会
2023年7月　第1566回札幌市民劇場 山口流篠笛演奏会 北海道地区20周年記念
2024年2月　奈良県薬師寺 奉納演奏
2025年10月　山口流開流25周年記念演奏会 仙台イズミティ21大ホール
2026年3月　台湾にて文化交流演奏会出演
2026年8月　其なし芳一語り公演

市立小樽美術館
otaru city museum of art
〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号　TEL:0134-34-0035